

令和4年度  
政策提言書  
『循環と持続～津山を未来へ～』



津山商工会議所青年部

## ご挨拶

---

今年度の津山商工会議所青年部は with コロナの中での本格的な活動がスタートしました。

どんな困難な状況においても前向きな姿勢で活動を行っていきこう、という想いを込めて、今年度のスローガンを「Stay Positive」としました。3年ぶりに開催された事業が多く、久しぶりに活動が出来る事に喜びを感じております。

そのような中、津山 YEG 政策提言委員会では、津山市が 100 年後も津山市として存在し続ける為にどのような事を行っていけば良いか、各行政、各団体へ出向き、調査研究を重ね、「経済・経営」、「生活・観光」、「郷土愛の醸成」の目線からアプローチを進めてまいりました。この 3 本の柱において各課題を洗い出し、課題解決する為の政策提言書を提出させていただきます。

津山市へ提言を行うのと同様に、我々津山 YEG も今までの常識に捉われず、優れた大局観と柔軟な発想を身に付け、100 年後も津山市から必要とされる団体になれる様、精進してまいります。

最後にこの政策提言書作成にあたり、ご協力いただきました関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。



令和 4 年度津山商工会議所青年部スローガン



津山商工会議所青年部  
第 32 代(令和 4 年度)

会長 釣谷 育宏

## 令和4年度 政策提言テーマ

### 『循環と持続～津山を未来へ～』



令和4年度津山 YEG 政策提言イメージロゴ

私達 YEG にできること、それは津山市を一つの会社として捉えた目線で、100年後も津山があり続けられるように考えること。

そのための提言のテーマを『循環と持続～津山を未来へ～』とした。

拠点都市津山が永くあり続けるため、『経済・経営』、『生活・観光』の面からのアプローチ、そして津山に関わる人々が郷土に津山に思い馳せるような『津山の日』の創設。この3本の柱において津山の未来へ寄与する提言とする。

地域が経済的に自立をし、そこに住む人の生活の質が上がり、市民が郷土に誇りを感じる。この一連の流れを達成するための一石を投じる提言とし、「津山を未来へ」繋げていけることを願う。

## 提言について

激動の時代を迎える昨今、今まで当たり前にあるものが、明日そこにあるかわからない時代に入っています。そんな中、今年度の提言においては、津山市が持続できるように、域内循環を考えながら進めることを念頭におき、検討を進めてまいりました。

また、津山商工会議所青年部が提言活動を継続的に進めること今年で6年目となりますが、私達の活動が幾ばくかの影響力が出てきている中、さらなる提言の実現に向けて、『受け取る側が採用しやすい提言書』となるように工夫しました。

提言書の構成を、『経済・経営』、『生活・観光』、『津山の日』の更に3つのテーマについてそれぞれ以下の構成で進行していきます。

- ・ ビジョン・・・提言により達成したい目標・指針と現状・課題
  - ・ 提言　　・・・具体的な提案内容
  - ・ 描く未来・・・提言した内容を実現できた場合の未来
- の三部構成としております。

津山のために何ができるか、どう進めればいいのか、どんな未来が待っているかの流れを考え提言しております。私達が考えた提言が、津山市があり続けるための一助となれば幸いです。



令和4年度政策提言委員会  
委員長 志水 亮介

## 基本的な考え方

## 経済・経営

## 方針

- 津山を一つの会社と捉えた財政的な政策提言
- 地域内循環を根ざした提言

## 提言により達成したいビジョン

1. ふるさと納税を使い津山を豊かに
2. 旧国際ホテル跡を新観光地へ新たなスポットの創出
3. デジタル地域通貨を用いた地域経済循環率の向上

## 生活・観光

## 方針

- 関係人口に着目した地域の盛り上がりの創出
- サードプレイスの創出

## 提言により達成したいビジョン

4. マルシェを持続可能な観光産業の柱とする

## 津山の日

## 方針

- 津山市民の郷土愛の醸成を目指した記念日の提言。津山市民・出身者が津山を思い出し、誇りに感じられる日
- 津山市発足 100 周年に向けた盛り上がりの創出

## 提言により達成したいビジョン

5. 津山市民が誇れるような津山の日の制定し、郷土愛の醸成を図る



## 経済・経営

ビジョン1	P.5
ビジョン2	P.11
ビジョン3	P.15
描く未来	P.20



この提言は以下のSDGs目標達成に寄与します



## ふるさと納税を使い津山を豊かに

### 現状と課題

津山市は、都市機能の規模として岡山県内で第3位の都市にもかかわらず、ふるさと納税については、県内市町村では第10位と低迷している。市の歳入に直に貢献できるふるさと納税であるが、現状において津山市はあまり力を入れているとは思えず、取材・研究を試みた。

ふるさと納税については県内の納税額ランキング（表1）を見ても大きなばらつきがあるが、他の市町村では5億円～12億円規模の納税額を毎年記録しているところもあり決して不可能とは言えない数字である。

ランキングの中でも特に目立つ令和2年度納税ランキング1位の吉備中央町に取材を行い、そこで得られた知見と民間業者視点からの仕組みづくりを提言したい。

（単位：千人、件）

市町村 順位	団体名	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		金額	件数	金額	件数	金額	件数
1	吉備中央町	711,515	28,338	1,024,085	39,956	1,086,241	28,932
2	総社市	1,688,595	53,905	509,814	12,838	557,897	12,758
3	瀬戸内市	287,181	7,990	618,069	26,465	525,250	28,417
4	笠岡市	835,615	58,857	721,551	40,662	509,003	37,906
5	玉野市	131,677	1,707	103,834	2,060	332,379	7,296
6	赤磐市	61,288	2,345	119,510	4,750	303,786	9,898
7	備前市	412,350	7,207	162,271	6,631	264,231	7,850
8	岡山市	121,980	6,071	74,658	3,798	240,666	12,299
9	真庭市	171,183	7,435	184,204	7,827	184,779	8,789
10	津山市	179,755	13,154	262,708	19,013	178,766	11,429
11	高梁市	56,482	2,778	68,070	3,744	166,508	11,715
	岡山県	46,384	1,406	84,920	3,474	142,862	2,479
12	西粟倉村	46,911	2,534	55,139	1,775	142,496	3,419
13	和気町	94,529	5,300	123,524	5,990	121,359	1,390
14	美作市	44,537	1,809	71,999	3,274	115,826	1,714
15	浅口市	29,532	2,016	51,326	3,600	98,533	2,150
16	美咲町	24,766	1,554	51,988	3,079	92,793	1,029
17	倉敷市	332,625	11,472	97,168	2,390	88,714	177
18	里庄町	17,018	926	26,891	1,099	72,932	1,121
19	新見市	54,771	2,322	44,064	1,620	39,285	661
20	久米南町	42,269	2,497	46,600	2,717	36,363	841
21	勝央町	17,169	1,040	17,995	988	35,186	568
22	井原市	30,086	1,216	22,941	687	30,970	1,212
23	矢掛町	19,342	577	5,520	148	19,353	661
24	鏡野町	14,834	752	11,991	731	19,149	841
25	新庄村	248,428	2,670	12,764	403	17,280	661
26	奈義町	4,977	277	7,432	352	13,164	841
27	早島町	4,755	383	4,641	332	8,995	568
	市町村合計	5,684,170	227,132	4,500,757	196,929	5,301,904	221,058
	合計	5,730,554	228,538	4,585,677	200,403	5,444,766	228,266
	全国合計	512,706,361	23,223,826	487,538,781	23,336,077	672,489,555	34,887,898

津山市は  
令和2年度時点10位  
と低迷

表1 岡山県内納税ランキング

## 提言 1-1

### 担当課の増員によるサービスの拡充

取材を行った吉備中央町（岡山県1位）ではふるさと納税対応課の職員は兼務を含めると全員で11名も所属していた。その全員がふるさと納税について対応が可能であった。

最低限でもそこに近い人数が必要であると思い、増員を提言する。単純な人員増員だけでまかなうのは難しいとして、他部署のかけもちでもかまわないが、担当できる人員が増えないと業務の効率化や良いアイデアも生まれないと考える。下記に吉備中央町と津山市の違いをまとめた。

	吉備中央町	津山市
HPの見た目	○ ふるさと納税独自ページがありデザインわかりやすい	× 市役所HP内にありデザイン的なメリハリがない
販売方法	○ 独自の販売フォーム	△ ふるさとチョイス等既存プラットフォームへの案内
納税者への対応	○ リピーターが多い顧客名簿管理が行き届いている	× 既存プラットフォーム頼り

表2 吉備中央町、津山市ふるさと納税の比較

表2のように、津山のふるさと納税において、①HPのデザイン、②販売方法、③納税者への対応について一定の課題があるといえる。



図1 津山HPと吉備中央町HP比較

上記図1はHPデザインを津山市と吉備中央町を比較したもの。吉備中央町のページは視覚的にもわかりやすい。

## 提言 1-2

### モノからコトへ ふるさと納税で多様なサービスを提供

地方だからこそそのサービスを提供し、農業体験や民泊等への宿泊斡旋などそういった‘モノ’を伴わないサービスを返礼品とするなど、モノ以外の広い視点での返礼品をそろえる。

富裕層に特化したサービスや他の都市部の自治体が行えない目線での新サービスの開発、他団体との交流等で意見を求めるなどアイデアの創出で良いサービスの提供を提案したい。

#### 第二のふるさと探し 地域とつながる

すべて見る < >

- TJ-01 築180年の古民家で寛く一泊二日夕朝食付(ペア) 三重県多気町・105,000円
- 30-1国東半島の農家民泊で田舎暮らし体験※食事付き宿泊券2名分 大分県国東市・47,000円
- 【飛騨の体験】飛騨の街歩きガイド2.5時間1申込みで1組4名までチケット 飛騨の美人・達人・名… 岐阜県飛騨市・20,000円
- マタギと行くスピリチュアル雪山トレッキング～山の神信仰を学ぶパワースポット体験～ 山形県小国町・70,000円

#### 食の最高峰を知る

すべて見る < >

- 東京スカイツリーSky Restaurant634ランチ「粋コース」ペア利用券(東京スカイツリー\*天望デ… 東京都墨田区・50,000円
- 【新鶴京都鴨川リゾート】レストラン(ルアン)川床ディナーペアチケット 京都府京都市・81,000円
- 【No.5904-0123】成田名物『川豊のうなぎ』ペアお食事券 千葉県成田市・20,000円
- 十割手打蕎麦店 夕星(ゆうづつ)夕星コースお食事券(2名様用) 東京都渋谷区・35,000円

図2 ふるさと納税「コトサービス」一覧

出典：ふるさとチョイスホームページより

様々な地域特色を生かした体験型サービスも返礼品として並んでおり、地元企業や農家などと密接なやりとりができる市町村だからこそその返礼品といえる。

## 提言 1-3

### ふるさと納税で生活インフラの確保（定期購入を促進）

返礼品として挙げられるものは、肉やフルーツ、お米など食品はもちろんのだが、それ以外にも日常生活に必要なものがある。

例えば紙製品、ティッシュやトイレットペーパーなども扱えるようであれば、これら日常生活の消耗品を返礼品としてふるさと納税のリピーターを増やすことを目的とした商品をラインナップに増やす。

また、津山市周辺居住者へも津山のスーパーや宿泊施設などの宿泊券や割引、また市内で利用できる食事券、地元地域通貨（電子マネーなど）の返礼品を提案したい。

The screenshot shows the 'ふるさとチョイス' website interface. At the top, there is a search bar and navigation links. Below, the '地元のお買物券' (Local Gift Certificates) section is displayed. A '人気ランキング' (Popular Ranking) is shown with three main items:

- Rank 1:** 代々木八幡の人気ベーカリー「365日」パンギフト券(6,000円分) for 20,000円. Location: 東京都渋谷区.
- Rank 2:** 京都府京都市 30,000pt for 100,000円. Location: 京都府京都市.
- Rank 3:** モンベルヴィレッジ立山 ボン12,000円分 for 40,000円. Location: 富山県立山町.

Below these are several smaller gift certificate options with various point values and prices.

図3 生活インフラ系ふるさと納税

出典：ふるさとチョイスホームページより

地元のお買い物券や旅行券、電子マネー等もふるさとチョイスに並んでいる。帰省する人はもちろんのこと、毎年訪れてくれる観光客などにも効果があると思われる。今まで、他の自治体に納税していた人も津山市へふるさと納税を行う吸引力となるのではなかろうか。



## 提言 1-4

### 寄付金の活用先の精査と増設

寄付金の使途について、吉備中央町ではお米で10億円の寄付を受けているが、その使用用途としては農業支援に限定している。

それがわかりやすさと、支援のしやすさを生んでおり、さらに生産者に還元されるというわかりやすい構図を生んでいる。

今津山市では文化財や子供の教育へ使われるよう明記されているが、実際、寄付する側からすれば返礼品等の生産者へ感謝が届くような用途が望ましいと考える。

そのため、一次産業や二次産業を支援し、今後、開業や企業誘致をやりやすくするための補助金や助成金などに使われる項目を増やした方が寄付を頂きやすくなるのではなかろうか。

すべてが WinWin の関係に

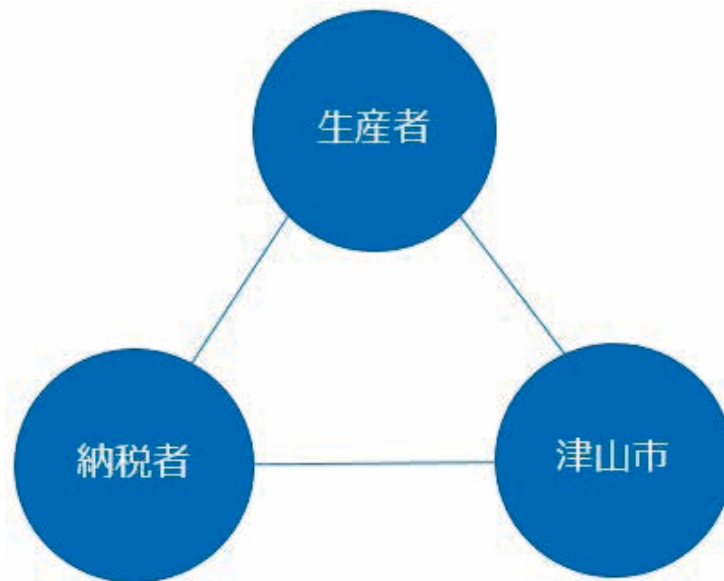


図4 使途の適正化による循環のイメージ

## 旧津山国際ホテル跡を新観光地へ 新たなスポットの創出

### 現状と課題

令和元年に旧津山国際ホテルが解体され、その跡地は津山商工会議所の駐車場や、さくらまつりの時期には、観光客向けの有料駐車場などの活用にとどまっている。

解体直後には新たな試みとして行われた、津山城下パークピクニック（社会実験）がある。同イベントでは一時的な市民の集客も図ったが、継続事業となっておらず地域性・利便性を鑑みても地域の交流の場となっているとは言い難いのが現状である。

市民の目から見ても津山市の一等地にふさわしい土地の有効活用が出来ていると言えなく、さらに利益を生む可能性を秘めた場所であるが、活用法は未だ模索中といえる。鶴山公園を中心とした観光エリアにもかかわらず、未舗装の駐車場としている現状の利用方法には疑問が残る。



図5 津山城下パークピクニックの様子

出典：津山瓦版 津山城下パークピクニック

上記図5の社会実験の写真では津山の景観的にマッチし賑わいを感じられる。永続的に地域の核となる場所と考えるからこそ、周りの景観や地域性に十分考慮し新しいスポットの創出に着手してみるよう提言したい。

## 提言 2-1

### 津山の目玉となるミュージアムの建設

ミュージアムの建設にあたり、鳥取県立美術館の例を参考に、県内・市内の企業で構成する特別目的会社（SPC）を立ち上げ行政が一体となって建物の設計・建設・運営・維持管理・開設準備を進める。

まずは、建設までに市民参加型のプレゼンテーションを行い、多くの市民と対話の場を持ち様々な分野の方から意見を抽出し、市民が参画できる機会を創出する。

そして、市民の誰もが愛着があり身近な津山の『肉』をメインテーマにした複合型ミュージアムの建設を提言し、「食・学ぶ・楽しむ」をコンセプトにワクワクして立ち寄りたくなる場所を作る。



図6 ミュージアムのイメージ

出典：鳥取県立美術館



図7：建設イメージ

- 1 F 肉に関わるミュージアム（官民連携）
- 2 F レストラン・物品販売（民間企業者メイン）
- 3 F 多目的ホール（官民連携）

屋上 屋上緑化を行い周囲の景観にも配慮（鶴山公園から見下ろした場合など）



## 提言 2-2

### PPP・PFI を活用した建設から運営まで

PPP（官民連携）を軸にミュージアムの建設・運営を行う。建設から運営に関しては公共事業の実施方法の1つであるPFIを活用。

民間に委託することにより、低コストで高品質な建物を作ることができ、長年に渡り適切な維持管理を行う事も可能である。

行政にとっても業務効率化、資金の効率的な活用、さらに行政サービスの向上にもつながると考える。

- <期待される効果>
1. 低廉かつ良質な公共サービスが提供されること
  2. 公共サービスの提供における行政の関わり方の改革
  3. 民間の事業機会を創出することを通じ、経済の活性化に資すること

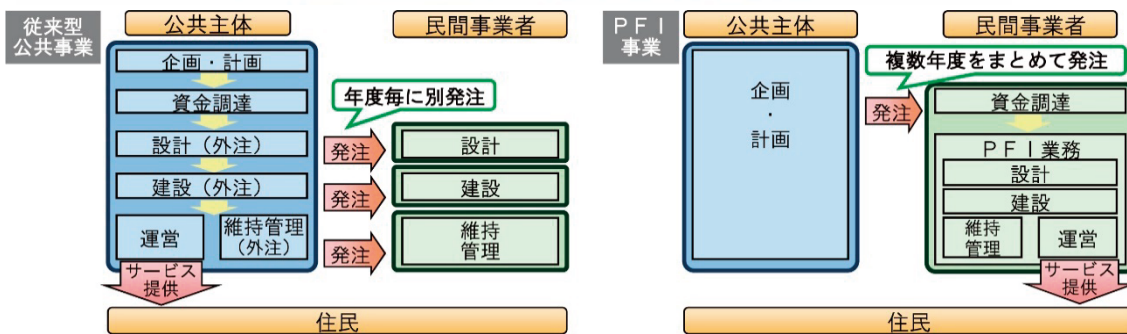


表 3 : PFI 事業モデル

出典：内閣府 HP より

従来の公共事業のやり方からPFI事業を活用することで、官民が一体となり両者にとってメリットが生まれる。

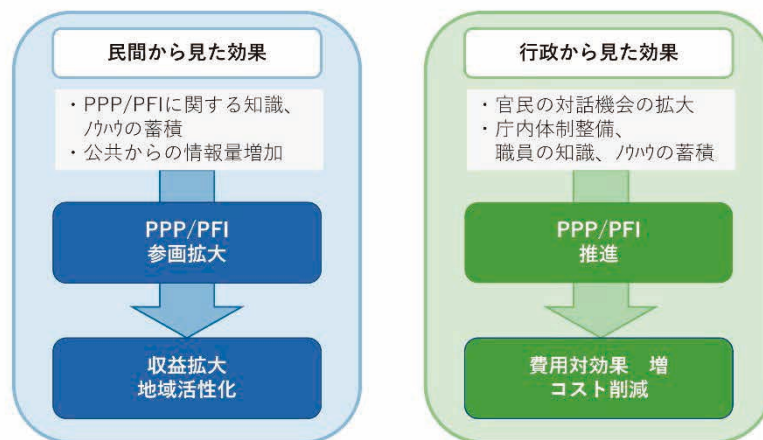


表 4 : PFI 事業の効果

## 提言 2-3

### 周辺施設との連携により街の活性化を

旧津山国際ホテル跡地近くには、観光名所や文化施設があり、4月の津山さくらまつりを代表に鶴山公園には例年約150,000人前後の観光客が訪れる。

公園を訪れるだけでなく、訪れる方にこのエリアを楽しんでもらう仕組みをつくる。このエリアはどうしても時期によって集客に大小があるため、ミュージアム建設や周辺施設との連携を図ることで年間を通してさらなる観光客や市民の利用促進を図れる。



図8 国際ホテル跡地周辺にある津山市の観光名所・文化名所

同じ通り沿いにこれだけ魅力的な建物や、公園がある地域に提言2-1に述べたようなスポットの建設が実現出来れば、なお魅力的な通りになる。

現在、津山市の資料によると山下エリアが経済・業務・文化施設の集積地となっている。点と点を結びつけることで、観光・文化の両方で人が集まる仕組みづくりをお願いしたい。

## デジタル地域通貨を用いた 地域経済循環率の向上

### 現状と課題

岡山県北の経済を担っている拠点都市津山市だが、地域経済の自立度を示す値である「経済循環率」でいうと85.2%<sup>1)</sup>(2018年現在RWSAS調べ)と、地域内経済循環が高いとは言えない現状がある。

これは津山だけでなく、県北の市町村は軒並み100%を割り込んでおり、軒並み経済的自立度が低い。要するに各自治体は他地域への経済的依存が不可欠となっているということである。

昨今、地域内での経済循環を促すとされている、『地域通貨』が注目されてきている。地域通貨のはじまりは1999年に遡り、それ以降、日本全国において広がりを見せてきていたが、2020年コロナ禍での国民支援策として全国的に様々な地域通貨(地域商品券)が用いられることとなり、さらなる認知度を増している。津山においても『石垣』、『さくら』、『うまい券』などの地域商品券が度々発行されており、人気を博している。

一方、QRコード決済をはじめとするデジタル通貨の利用がここ数年で爆発的に普及してきている。前提となるスマートフォンの普及は高齢層にも普及してきており、非接触ツールとして活躍するなど、メリットの多い決済手段と言える。

この2点のツールを活かすべく、現在津山では「eつやま商品券」として期間限定電子決済商品券が普及を狙っており、紙ベースだった地域商品券に比べ、利便性が向上している。

一部、高齢層からの批判の声もあるが、一度使ってみたらその便利さに気づくことも多く、少しずつだが電子決済は地域に馴染みつつある。

拠点都市にふさわしい都市機能が整備された津山へ向けて都市インフラDX(デジタルトランスフォーメーション)化の一端を担うものとして以下のものを提言したい。

1) RESAS 経済循環率津山市 調べより引用

## 提言 3-1

### 地域商品券からデジタル地域商品券へ、更にデジタル地域通貨へ 津山独自のデジタル地域通貨「作州コバン（仮）」発行

津山独自のデジタル地域通貨「作州コバン（仮）」の発行を提言する。

この「作州コバン（仮）」の可能性を探る中、現在全国的な広がりを持ち始めているデジタル通貨だが、その意義は大きく以下①②の2点と考えられる。また、その説明と代表例を記す。

#### ①地域経済循環型：

デジタル地域通貨を地域限定通貨として捉える。

全国例：岐阜県高山市さるぼぼコイン、千葉県アクアコイン、福井県白虎等

#### ②コミュニティ推進型：

ボランティア活動やスポーツ応援活動をすることで入手したデジタル地域通貨(ポイント)を地域の人々や商店と授受ができる交流・体験を促すもの

全国例：鎌倉市クルッポ、高松市めぐりポイント

津山市においてはeつやま商品券の枠組みが既にあるため、①**地域経済循環型** の手法を用いてeつやま商品券を「作州コバン（仮）」へ昇華すれば良いと考える。地産地消の考えのもと、地域生産物を地域内での消費をすることで、「**経済循環率**」の直接的な向上につながると考える。

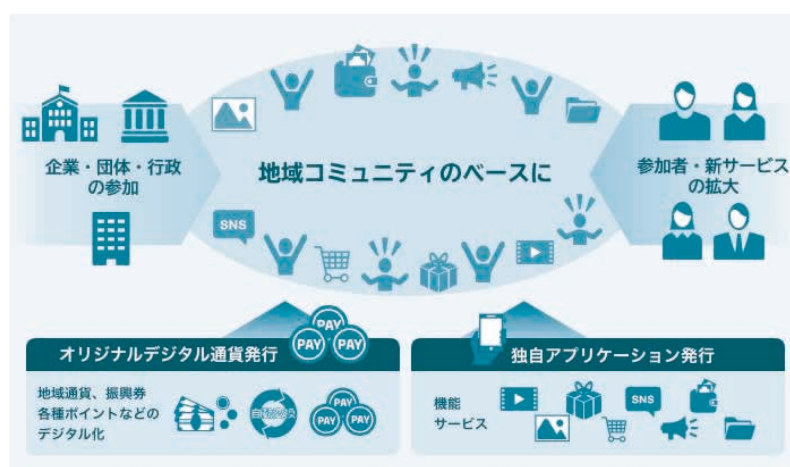


図9 地域通貨を使った経済循環イメージ

出典：NEC orchestrating a brighter world HP より

## 提言 3-2

### 「作州コバン(仮)」の運用を津山の金融機関との連携

地域通貨の裏付けとなるためには金融機関との連携が必要となってくると考える。  
下記に資料を示す。

地域通貨の事例比較

	オリオン	さるぼぼコイン	アクアコイン	ブリストル・ポンド
所在地	北九州市 折尾地区 (福岡県)	高山市, 飛騨市, 白川村 (岐阜県)	木更津市 (千葉県)	ブリストル市 (英国)
発行主体	NPO 法人	地域金融機関	地域金融機関 + 地方自治体	地方自治体 + 地域金融機関
発行年	2005 年	2017 年	2018 年	2012 年
発行形態	紙幣のみ	電子地域通貨	電子地域通貨	紙幣 + 電子地域通貨
使用・流通 の範囲	商店街 中心	市域を超える (2市1村)	市全域 (行政サービス を含む)	市全域 (行政サー ビス, 職員給与支 払いを含む)
流通コスト	高い	安い	安い	高い
地方自治体 の関与	弱い	強い	とても強い	とても強い
金融機関の 関与	強い	とても強い	とても強い	とても強い
市民活動の 関与	とても強い	弱い	弱い	ある (弱くはない が強いともいえ ない)

表 5

地域内循環経済を促す地域通貨の 参加と流通のデザイン —— 「オリオン」(北九州市折尾地区) の事例研究と 電子地域通貨の展開 —— 松原 英治・藤本 穰彦

表 5 のように全国様々な地域通貨において金融機関の関与は必須条件となっている。

特に高山市のさるぼぼコインにおいては飛騨信用組合が母体となり地域通貨を発行しており、換金手数料、送金手数料を設定しながら持続的な活動ができる工夫を凝らしている。要するに運営母体も損をしない構造になっていることが重要であるが、金融機



関はそのプロフェッショナルといえよう。

このように経済的持続性を担保することで、無理なく普及を促す方向に舵取りができ、継続的な施策として地域に根付かしていくことができる。時間をかけながらも幅広い層に普及できればまた地域経済循環率が高まるといふ好循環を生む。

津山においても金融機関をパートナーとして引き込むことで「作州コバン(仮)」の発展につながると考える。

また、デジタル地域通貨としてのシステム構築も必要である。デジタル地域通貨と言っても主に以下の二種類に分けられる。

①従来のキャッシュレス決済などの口座型

②ブロックチェーン技術を活かしたトークン型

①は既存の技術であり、代表的な特徴としてデジタル通貨を現金として店舗へ支払いするまでの流れに時間がかかるなどの流動性面で②に劣る。一方、②については新しい技術であり導入事例は少ない。

全国的に広がっているのは①が多いが、将来的には技術的な有用性がある②を見据えてはどうかと考える。

### 提言 3-3

#### 地域通貨モデルをつかって学生にお金の教育を

いわゆる「お金の勉強」を避けてきた日本教育だが、老後 2000 万円問題に端を発するように、個人個人がお金を考えて使うことの必要性が増してきている。先の地域経済循環率も地域内で稼いだお金を地域内で使い、地域の会社が潤うことで高まっていく。このことを学ぶきっかけとして地域通貨のモデルは有効であると考ええる。

例えば地域通貨を学校の購買などで使うことができれば小中高生からデジタル地域通貨に触れることが可能になる。デジタル地域通貨を使うきっかけを作りつつ、実際自分たちが使っているこの通貨の意味について授業などを通して教育を図ることは地域経済を通じた金銭教育として最適と考える。

地域通貨が地域内でしか使えない意味、地域経済循環率を向上させる意義、そのことがもたらす津山の未来など、若年層への落とし込みのきっかけになると考える。

## 提言 3-4

### 地域通貨アプリを使った広報機能の付与

デジタル地域通貨を使うためにスマートフォンアプリは必須である。誰もがアプリを開き、アプリ内の QR コードを使って支払いを済ませる。普及率が高まればこのアプリは地域のデジタルインフラとして確立される。

一方、情報収集が新聞などの紙媒体からアプリなどの電子版のニュースを使う機会が増えてきている。総務省の情報通信白書<sup>2)</sup>によると新聞の購読率は年々低下しており10～30代の購読率は10%以下となっている。地方の情報媒体として確立させていた新聞の購読率がこのように低下してきている中、我々が津山に住んでいて地域のニュースやイベント情報にふれる機会の少なさを感じる。

そのような中デジタル地域通貨がインフラとして成り立った上で、そのアプリに広報機能を持たせることを提案する。地域内の情報を地域通貨アプリに出すことの実用性は高い。地域通貨アプリ内で広報をすることにより、より多くの市民に対して情報を行き渡らせることができると考える。この性質を利用して**防災機能や掲示板機能**などをもたせることも有効である。

2) 総務省 HP より

キャッシュレス決済アプリを開くと  
広報部分が自然と目に入る  
ここに防災情報機能を持たせてもいい



図 10 広報機能を添加したキャッシュレス決済アプリイメージ

## ～描く未来～

ふるさと納税の提言により様々な返礼品が呼び込むふるさと納税はその寄付により支援される生産者達の助けとなり、その結果事業は拡大して行く。

支援された産業では継承者を生み出し、さらには新規生産者も増えていく。

様々な生産物、アイデアにも恵まれ津山市には特色ある特産品が増えさらなる返礼品を生んで寄付金そのものを増やす、生まれた特産品などが観光資源となり観光客を呼び込む事にも波及する。

旧津山国際ホテルの跡地利用により「食・学ぶ・楽しむ」をコンセプトに、多くに人が訪れ、地域の事業者を応援・支援できる運営でオープンなミュージアムを作り上げることで、市民の意見も盛り込んだ愛情のつまった建物をすることで、このエリア自体の価値が上がるよう期待する。



図 11 倉吉パークスクエア周辺

デジタル地域通貨により津山市だけでなく経済圏を県北市町村に広げていくことも考えられる。真庭市や美作市などとも連携しながらデジタル地域通貨を活かし、地域内循環率を高め、県外依存度を下げていくことは津山を含めた周辺地域を持続的に成り立たせることの一助となると考える。また、若年層をうまく取り入れ、地域通貨を通して、地域を大切にするきっかけとなれば明るい未来がそこにあるのではないか。



これらの経済・経営のビジョンにより

- ・地域外からの流入
- ・地域内循環
- ・生活の質向上

のバランスを担うことができ、津山市の大きな循環を生み出すことを期待する。

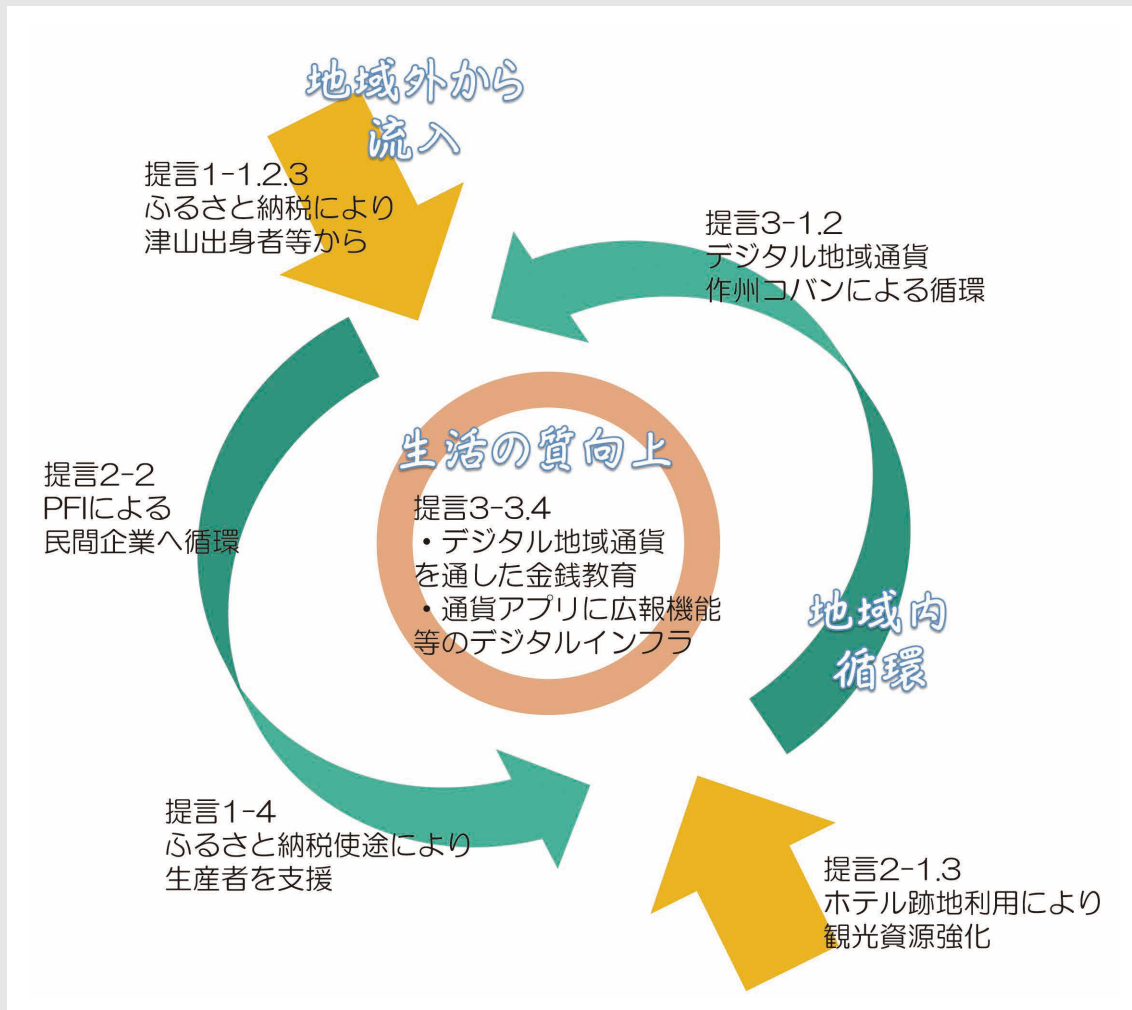


図 12 経済・経営を強化した場合のイメージ



## 生活・観光

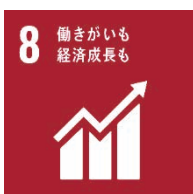
ビジョン4

P.22

描く未来

P.29

この提言は以下の SDGs 目標達成に寄与します



## マルシェを持続可能な観光産業の柱とする

## 現状と課題

コロナ禍以前より、各種イベント・マルシェが全国的に増加傾向にある。それは、ただ単に新鮮な野菜などを購入できるだけでなく、生産者とのコミュニケーションを取れるところに魅力があり、このことは情報化社会により希薄となった人と人との繋がりを求めるようになったからと言える。しかし、2019年からコロナ禍に入り、人々の生活様式の変化や各種イベントの中止など、物理的に人との接触が困難となったことにより、再び人との繋がりが徐々に希薄となってきている。

そんな中インターネット上において、生産者の説明文を読むだけでなく、ユーザーと生産者がコミュニケーションを取れる機能が付いた「ポケットマルシェ」の魅力が再認識され、ユーザー数、生産者数が年々増加傾向にある。

最近では、新型コロナウイルス感染症に関する警戒感が徐々に薄れる中、津山市内でも週末には各地でイベントやマルシェが行われている。津山には歴史的な観光地や食文化がある中で、オーガニックマルシェ、宮川朝市等、様々な団体による多様なマルシェが開催されており、津山市全体で盛り上がりを見せている。

その一方で、マルシェでは「主催者」、「出店者」、「行政」の三者がそれぞれに関わり合いをもつが、**主催者と行政の間**では開催場所の問題、各種届出の複雑さ等があり、**主催者と出店者の間**ではマッチングの難しさ等それぞれに課題を抱えている。

現在、国、地方自治体においては、新型コロナウイルスの影響を受けている観光産業への支援が本格化してきており、観光産業の回復に力を入れている。今後は、津山市内への観光客の増加が見込まれるため、盛り上がりを見せ始めているマルシェが津山の観光産業の柱となるように提言したい。



## 提言 4-1

マルシェを観光産業の柱に。

### 既存の枠を超えたサポート体制の構築を

取材の中で、マルシェにはそれぞれのコンセプトがあり、開催場所、出店店舗のラインナップ、出品物等で表現されている。そんな中、マルシェごとにそれぞれファンを抱えていて、今やマルシェ全体に於ける集客力は一観光資源として確立されるものとなりつつある。また、その性質から各所で行われる開催数が増えるほど相乗効果で集客数が伸びるといった背景もある。

莫大な金額を投じて自治体が一大観光産業をつくるのではなく、今や民間の力が地域の魅力を創る時代となって来ている中で、民間ベースで影響力を高めているマルシェについて行政的なサポートをしていく必要性を強く感じる。

主催者、出店者からの取材によりそれぞれのマルシェを継続的に活動していく中での課題として最もハードルが高いのが「広報」についてということだった。SNS等の発信を個別でできる昨今であるが、やはり行政的サポートがある部分での広報活動の影響力は大きい。

そこで私たちは津山市イベントページと JAKEN などの民間企業でありながら情報インフラとして成り立っている媒体を用いた広報誌に対して行政のサポートとして情報の掲載を行うことを提案したい。

一方で行政側において、イベント告知は民間の収益性があるものは現状掲載できないことになっている。しかしながら、現代においての観光産業は公共性の高いものだけにとどまらず民間の力を活かしたものが多い。この流れを活かすため、行政はこれらをサポートするための今までにない規制緩和に踏切る時期であると考える。

今後ますます発展することが予想される『マルシェ産業』に対しての規制緩和と行政サポートを早いうちから行うことにより、周辺地域と一線を画すことができ、マルシェの街津山という立ち位置を確保することができれば、観光産業の一つの柱となり得ると考える。

暮らし、ほんもの。 津山市 TSUYAMA CITY OFFICIAL WEB-SITE

検索キーワード

[サイトマップ](#) [English](#) [各部署一覧・連絡先](#) [エンターページへ戻る](#)

暮らし・移住・定住 事業者の方へ 市政情報 津山ナビ

市民窓口 手続きガイド

子育て情報はこちら

子育て情報はこちら

いざという時に

- 津山市防災ハザードマップ
- 避難所一覧
- 災害時に発表する警戒レベル
- おがやま防災ポータル(岡山県総合防災情報)
- 国土交通省 川の防災情報
- 岡山県警くらしの安全 WebMap

トップページ > 暮らし > イベント・行事

### イベント・行事

- 「生涯学習講座中国文化あれこれ」を開催します!
- 令和4年度 加茂町文化祭が開催されました!!
- 令和4年度 津山市二十歳を祝う会について
- 作州津山宮川朝市

暮らし、ほんもの。 津山市 TSUYAMA CITY OFFICIAL WEB-SITE

検索キーワード

[サイトマップ](#) [English](#) [各部署一覧・連絡先](#) [エンターページへ戻る](#)

暮らし・移住・定住 事業者の方へ 市政情報 津山ナビ

市民窓口 手続きガイド

子育て情報はこちら

子育て情報はこちら

カレンダー

<< 2022年11月 >>

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

今週のイベント

PDFで表示

検索する

トップページ > イベントカレンダー

### 今週のイベント

<< 2022年11月29日から1週間 >>

日付	時間	スケジュール	場所	お問合せ先
29日 (火)	10:00 ~ 11:30	国分寺保育園交通安全教室	国分寺保育園(国分寺)	環境生活課 0868-32-2056
	10:00 ~ 13:00	スマホ教室*申し込み11月8日まで	高野公民館(高野本郷)	山陽新聞社スマホ教室サポート窓口 086-803-8195

図2 津山市イベント行事ページとイベントカレンダーページ  
津山市役所 HP より

※津山市のホームページ内で今月のイベントの案内のページがあるが、「イベント・行事」ページと「イベントカレンダー」ページに分かれていて広報機能が高いとは言えないデザインとなっている。民間広報媒体を使う他、市役所側のHPにおいてもマルシェの主催者・来場者へより分かりやすい作りのデザインが求められる。

## 提言 4-2

## マルシェ開催へのハードルを下げるため、申請方法の改善

マルシェを主催しやすく、市役所側の業務量も低減させる施策を提案したい。

## ・ HP の改善

図 3 は、津山の公園利用の HP であるが、マルシェを開催するための場所の申請は、この中から選ぶ必要がある。主催をしたことのない人が自分に必要な申請書を選ぶのは難しいと感じる。また、このページに行き着くまでも「マルシェ」というキーワードでは行き着くことができない。このことを受け、HP の改善の必要があると考える。

都市公園を利用する場合			
1	◆都市公園内行為許可申請書	都市公園内においてイベント・集会その他これらに類する催しのため、都市公園の一部又は全部を独占して利用したいときに、提出してください。	ダウンロード[16KB Word2 ファイル]
2	◆都市公園占用許可申請書	都市公園内に公園施設以外の工作物その他の施設を設けて、都市公園の一部又は全部を占用しようとするときに、提出してください。	ダウンロード[15KB Word2 ファイル]
3	◆有料公園施設利用許可申請書	緑山公園内緑山館/東条公園内迎賓館・余芳館・風月軒・清涼軒/神楽岡公園内研修室を使用したいときに、提出してください。	ダウンロード[14KB Word2 ファイル]
4	◆使用料減免申請書	都市公園・有料公園施設又はその他公園の使用料の減免を申請する場合に、提出してください。	ダウンロード[31KB Word2 ファイル]
5	◆大規模イベントチェックリスト	都市公園で大規模イベントを行う場合に、提出してください。	ダウンロード[61KB Excel2 ファイル]
6	◆大規模イベントチェックリスト (グリーンヒルズ津山)	グリーンヒルズ津山の公園又は施設で大規模イベントを行う場合に、提出してください。	ダウンロード[15KB Excel2 ファイル]
7	◆グリーンヒルズ平面図	場所を明示する際に併用下さい。	ダウンロード[14KB PDF2 ファイル]
8	◆承諾書	都市公園で大規模イベントを行う場合に、大規模イベントチェックリストに添付してください。	ダウンロード[12KB Excel2 ファイル]
その他公園を利用する場合			
9	◆行政財産使用許可申請書	その他公園内においてイベント・集会その他これらに類する催しのため、その他公園の一部又は全部を独占して利用したいときに、提出してください。	ダウンロード[16KB Word2 ファイル]
10	◆使用料減免申請書	都市公園・有料公園施設又はその他公園の使用料の減免を申請する場合に、提出してください。【裏印刷】	ダウンロード[15KB Word2 ファイル]

図 3 マルシェ主催に必要な許可書取得ページ  
津山市役所 HP より

具体的には

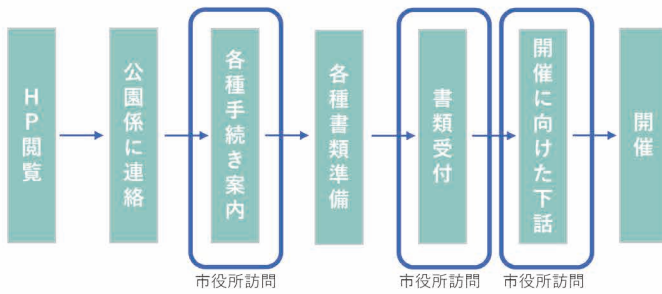
- ①マルシェ主催者・出店者向けのわかりやすい入り口を作る。
  - ②必要な申請書が主催者目線でわかるようにする。
- ことが必要と感じる。

## ・ 申請方法の改善

現在、申請書は上記の様に HP 上よりダウンロードして、紙ベースでの申請を行っている。しかしながら、昨今において様々な申請フォームがインターネット上のオンラインフォームでなされており、この申請も同様の方法を取ることを提案したい。このやり取りのシンプルさを実現できれば、主催者側と市役所側の双方の省力化及び確認事項の確実性が期待できる。



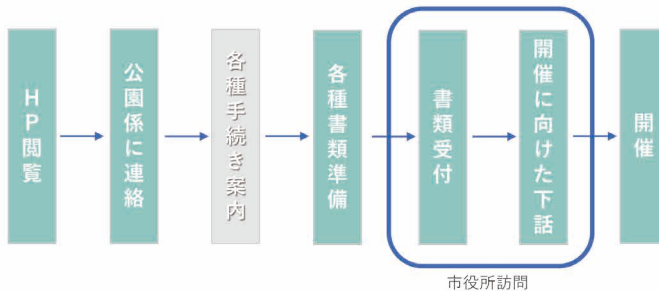
マルシェを主催する手順 提言実行前



デメリット

少なくとも2回以上の市役所訪問が必要。  
主催者・市の担当者共に負担が大きい。

マルシェを主催する手順 提言実行後



メリット

主催者が事前に開催プロセスを理解しやすいと、事前に書類準備ができ、市の担当との下話し易い。

メリット

市役所の訪問回数は最低限。  
主催者・市の担当者の負担減。

表1 マルシェ主催について提言実行効果

※「公園係」とは市役所担当係を指す。

表1のようにHPや申請フォームの改善を施すことにより、主催者側と市役所側の双方のメリットがあると感じる。

・申請内容に広報機能を持たせる

また、上記フォームなどの後に「広報したい項目」を追加することを提案したい。マルシェ主催者への取材の中で課題として複数の回答があったのが広報・告知であった。この機能を申請手続きの延長上に持たせることで申請→広報をシームレスに行うことができる。市役所においては開催の日程や特徴などをHPのイベント欄に掲載を検討してもらいたい。

マルシェは観光資源としての背景も保持しており、イベントを広く告知することは津山の観光産業を盛り上げる一助になると考える。



図4 真庭市のイベントページ  
出典：真庭市HPより

## 提言 4-3

### 人と人、マルシェと場所のマッチング

- 相互に索引できるシステムを構築し出店者と主催者をつなぐ
- 自分たちのマルシェに合った場所を見つける

提言 4-1 で津山市役所はマルシェ開催団体の規模及び、ビジョン等の情報を取得できる。そうした情報の活用手段として主催者と出店者を相互に索引できるシステムを構築していただきたい。




主催者側からの情報抽出だけでなく、出店者側からも、出店希望情報を集めることで主催団体と出店希望者のマッチングが容易に出来る。

出店募集情報  
Event Information

〇〇マルシェ

詳細は非公開となります。インターネット上で公開いたします。心当たりのある店舗にてバナーを掲載します。詳細は、お問い合わせください。ネット形式の販売など、どこまでも販売参加できるイベントです。出店者様はぜひぜひ楽しいイベントに参加してください。お待ちしております。

### マルシェの紹介

募集締切	2022年10月21日
出店日	2022年10月23日
出店種別	イベント出店 (キッチンカー)
出店形態	キッチンカーまたは出店してほしい店舗の詳細
募集内容	ハンドメイド作品販売、自家栽培野菜や食品の販売、ワークショップの開催、飲食の販売(テント/キッチンカー)、ライブパフォーマンス出演、ライブ出演、アート作品展示・販売、その他コンテンツ展開など
出店住所	〒420-0801 津山市津島1-1-1 イトービレッジ津島1F 2F
募集数	30
出店料 (マージン)	500円
動員目標	200
販売品目	ジャンル問わず
ブランドコントロール 販売禁止物	
備考	イベント会場付近にはコンビニやスーパーなどがなく遊びに来たお客様や出店者様のお昼御飯がなくキッチンカーや食品店と販売の出店者様を大募集
資料	

図 5 マルシェマッチングについて



また、マルシェの課題として、調査した結果下記のことがわかった。

#### アンケート結果によるマルシェの課題

- ・ 開催場所の諸条件（各種許可、開催場所の明確さ）
- ・ 駐車場台数の確保（開催場所によって大規模な駐車場がない場合もある）
- ・ 出店者の確保（主催者単独で出店者を集めるのが難しい）

※2022.10.30 桃 TAROEXP02022 及び、Tsuyama food collection にてアンケート実施

現在、開催場所、駐車場、出店者の確保は開催団体が行っており、負担が大きい。こうした負担の軽減を行うことでより開催しやすい環境を作り出す事が出来る。

開催場所によっては、使用できない場所か、申請をすれば使用出来る場所か、主催者側では分からない事が多い。

自分の趣味を披露したい、販売したいと思っても主催団体との繋がりがなく断念している事がある。

津山市が取得した情報を有効に活用し誰でもアクセス可能な情報にすることや、コンシェルジュとしての役割を果たす事で、主催団体の負担軽減、土地の有効活用、主催者と出店希望者の出会いの創出に寄与できると考える。

また、取材の中で主催者、出店者ともに女性の活躍が目立っていた。マルシェに対する様々な思いをもった女性の意見を聞く中で、マルシェの輪が広がるのが女性の社会参画を促進することにも繋がると確信している。特に主婦層には、社会参画のきっかけがあれば活躍が期待される人も多いと考えられ、こういった人達の足がかりとなる場としてマルシェが適していると感じた。

このような、人々が社会の中にもう一つの居場所（**サードプレイスの創出**）作りができることで、津山市を内側から盛り上げていける一助となることを期待できる。

## ～描く未来～

津山のマルシェ、イベントの活性化により持続可能な観光産業の柱とする。

この提言の実現により、申請やマッチング、情報収集が容易になればどんな催しがいつどこで開催されているのかを知る事が出来る。更に観光客や市外からの利用者が参加しやすくなる。

この提言により、出店者も来場者も津山市内外から毎週末のように集まり、市内各地で様々なマルシェが開催されるようになる。例えば、結婚を期に津山に移住してきた主婦がマルシェへの参加を通し、社会復帰のきっかけとなる。

そんな未来も思い描きながら...

「みんな～次の週末は晴れの予報になってるぞ～、どのマルシェに行ってみようか!？」

「パパ～、ポチもいっしょにつれってってもいい?」

と満面の笑みで家族は津山市のホームページを見ながら楽しそうに週末のことを話している

そんな津山の新しい観光産業がある事で子どもの未来に魅力的な津山が生まれていくのではないだろうか。





## 津山の日

ビジョン5

P.31

描く未来

P.37



この提言は以下の SDGs 目標達成に寄与します



## 津山市民が誇れるような 『津山の日』を制定し、郷土愛の醸成を図る

### 現状と課題

近年、情報化社会による地域コミュニティの弱体化等、地域社会の急速な変化に伴い若い世代の郷土への関心が低下している。昨年度の政策提言で行ったアンケートにおいても津山市に定住し就職を希望する学生の割合は『希望する 22%、希望しない 78%』となっていた。そのことにも象徴されるように郷土への関心の低下が人口流出に繋がっている現状である。地域への関心の低下は、地域の諸問題に取り組む人の減少をもたらし、津山の活力低下に直結すると考える。

また、地域の子どもと大人の関係性の希薄さにも問題が生じている。津山市の活性化を図っていくうえで、地域の将来を担う子どもたちの存在は不可欠である。

一方、市の活性化に向けて活躍する市民・企業・各種団体・行政等の様々な取り組みがある中で、一部では盛り上がりを見せてはいるものの、包括的に周知をできるような仕組みが少ないため、その活動やイベント等、文化的遺産の魅力発信が市民全体に認知されていない問題がある。

津山市の活性化に向けて活躍する市民・企業・各種団体・行政等が有機的な繋がりを持ち、情報交換や連携を図りながら郷土愛に満ちた津山を創造するために『津山の日』を制定し、「津山に住み・暮らす人」が「津山を大切に作る心・誇りに思う心」を醸成する必要があると考える。

## 提言 5-1

### 2月11日を『津山の日』として制定する

津山の日を制定するにあたり全国の自治体を調査した結果、そのほとんどが発足日を『〇〇の日』としていた。

津山市が発足したのは1929年2月11日であり、この日が『津山の日』として相応しい日と考える。

また、津山市では冬期の催事も少ない上、2月11日は建国記念日でもあり祝日という利点から、催事を設けた際人々が訪れやすい日取りとなっている。

更に、年初にあたる2月とすることで、後述するように『津山の日』を津山で開催される年間行事をPRする場と位置付ければ、そののちの一年間に行われる津山の催事の盛り上がりをもベースアップできるものと考えられる。

この津山市が発足した2月11日を『津山の日』として制定を提案する。

#### 都道府県の『〇〇の日』一覧

北海道	07/17	北海道みんなの日	福井県	02/07	ふるさとの日
岩手県	03/11	大切な人を思う日	山梨県	11/20	県民の日
宮城県	06/12	みやぎ県民防災の日	静岡県	08/21	県民の日
秋田県	08/29	県の記念日	愛知県	08/01	愛知の発明の日
福島県	08/21	福島県民の日	三重県	04/18	県民の日
茨城県	11/13	茨城県民の日	和歌山県	11/22	ふるさと誕生日
栃木県	06/15	県民の日	鳥取県	09/12	とっとり県民の日
群馬県	10/28	群馬県民の日	香川県	07/02	うどんの日
埼玉県	11/14	埼玉県民の日	高知県	11/11	こうち山の日
千葉県	06/15	千葉県民の日	愛媛県	02/20	県政発足記念日
東京都	10/01	都民の日	鹿児島県	07/14	県民の日
富山県	05/09	県民ふるさとの日			

47都道府県を調査した結果23県に『〇〇の日』が制定されていた。



## 市の『〇〇の日』一覧

旭川市	08/01	旭川市民の日	横浜市	10/18	横浜市民の日
仙台市	06/04	市民防災の日	川崎市	07/01	川崎市民の日
秋田市	07/12	市の記念日	佐久市	03/09	佐久市民の日
小美玉市	03/21	小美玉市民の日	須坂市	11/21	須坂市民の日
つくば市	11/30	つくば市民日	草津市	11/30	市民の日
宇都宮市	04/01	宇都宮市民日	岡山市	06/01	岡山市民の日
埼玉市	05/01	さいたま市民の日	沖縄市	09/07	市民平和の日
春日部市	10/01	春日部市民の日	那覇市	07/08	なはの日
千葉市	10/18	千葉市民の日			

表1 各自治体 〇〇の日一覧

## 提言 5-2

## 津山にある、文化・催しなどの魅力を発信する日とする

元来、人々は祭りや催事等、文化を媒介にしながら人と人との繋がりを作ってきた。催事は人々の楽しむべきものであり、重んじるべき慣習である。これは、生活の一部として人々と密接に関るものであった。ときに家族・集落・街全体など、様々な形で形成されながら人々の繋がりや育まれてきた。

しかしながら、かつての慣習は薄れ、様々なものにとって代わられており、同時に人同士の繋がりも確実に希薄になってきている。そのような中、津山市には今も受け継がれる文化や祭り、また、市を盛り上げるために活動している団体や活動が多数存在する。この文化や活動の一つ一つは、大小あるが、その活動において成果を出し、根強い人気のあるものや心待ちにしているファンを抱えているものもある。

そこで、『津山の日』が制定できれば、津山が持っている魅力をPRし周知してもらう日として、文化・イベント等を一同に介した EXPO のような催しを開催することで津山の冬を彩る一大イベントとなると考え、ここに提案したい。また、このような形で津山市を盛り上げることで、それぞれの活動や文化のPRにも繋がり、市全体が手を取り合い、それぞれの活動する幅を広げて市を盛り上げる効果も狙える。

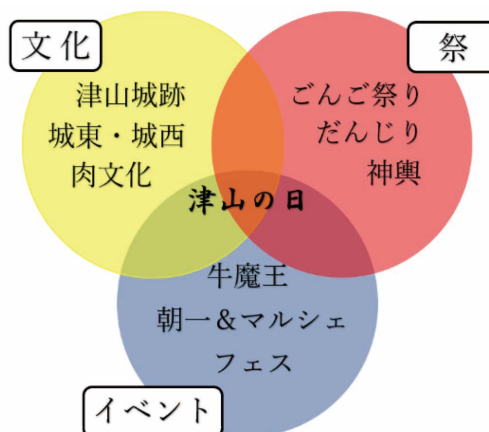


図1 津山の日 位置づけのイメージ

## 提言 5-3

---

### 子ども向けの発表会や表彰式を『津山の日』に開催

津山市を盛り上げるためには地域の子どもと大人の結びつきは必要不可欠と考える。そこで、提言 5-2 に加え、『津山の日』に子どもの発表が出来るイベントや表彰式等を同時開催することを提案したい。

開催することで、子どもたちの努力を大人が知ることができ、大人の活動を子どもたちに少しでも伝えることができれば、子どもたちは、次世代の津山を盛り上げる活動を担う人材となる。

また、子どもたちの勇姿を鑑賞しようと親御さんたちも集まり、提言 5-2 の開催と合わせれば、幅広い層への PR 効果を見込める。

#### その他具体例等

##### 【津山のミラクルモンスター発掘】

・発表会で表彰された子どもたちや団体等には、『津山の日』に実演をしてもらう場を設けて活動の幅を広げてもらう。

##### 【大人と子どもの掛橋になる】

・この場を機会に子どもたちに津山市で活躍している大人の姿を見てもらい知ってもらうことで、次世代の津山市を盛り上げる人材になってもらう。

## 提言 5-4

### 公的機関の一部無料化（博物館などの期間限定無料化）

現在、津山市において「津山まちじゅう博物館構想」が推奨されており、津山の資源を包括的に考え、対外的に津山市を PR する施策を打ち出している。その一方で、市民自身が津山の魅力的な資源を理解しきれていない現状もある。

そこで、『津山の日』には津山市中心部にある博物館や歴史資料館など津山市を知る為の施設を津山市民に対して無料化することを提案したい。



図2 津山郷土博物館のHPより引用



図3 津山まなびの鉄道館のHPより引用

具体的には、津山郷土博物館、津山まなびの鉄道館、つやま自然のふしぎ館、鶴山公園など、津山の文化を濃密に知ることのでき、普段は入館料が発生する施設を選定してもらいたい。

『津山の日』＝「津山市民が津山の魅力を知ってもらう日」とし、この施設の無料化を通じて、津山をもっと知ってもらい郷土愛を深めてもらうことを狙える。



図4 岡山観光WEB HPより引用



## ～描く未来～

### 今後の『津山の日』のビジョン

現在津山市が制定されて94年余りが経過しています。来る2029年2月11日、約6年後には100周年を迎えます。津山市が一丸となってこの節目を盛大に盛り上げて津山市の活性化に繋がる日を目指します。

#### 【100周年の構想】

- ・ 記念式典
- ・ B'z等、津山出身のアーティストの凱旋ライブ
- ・ 子どもたちや学生グループ等の発表が出来るイベント
- ・ 津山市内を探索するスタンプラリー開催
- ・ 100周年記念マラソン
- ・ フードフェス
- ・ 令和元年に開催しただんじり集合などの開催をしてはどうか。

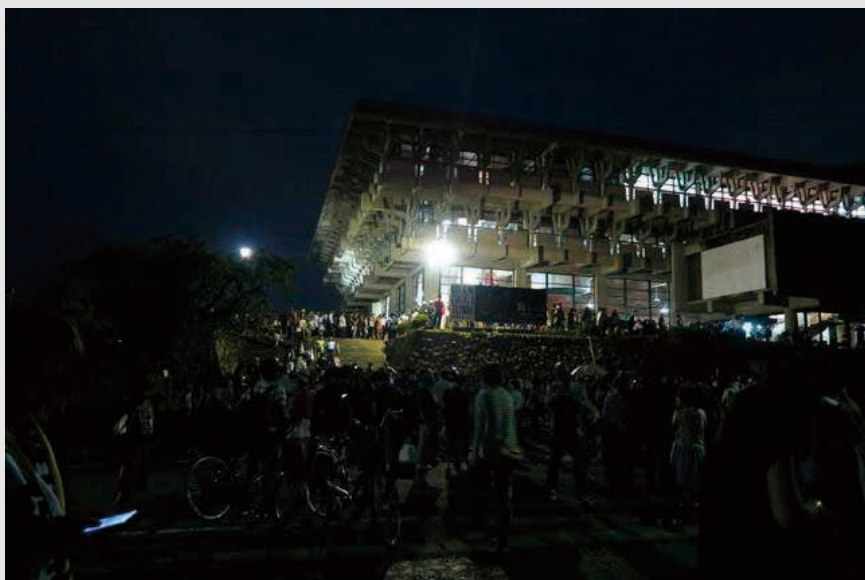


図5 2017年7月22日津山文化センターでのB'z凱旋ライブの様様



図6 2022年11月6日津山文化センター開催されたでダンス発表会の様子  
GlobeのFacebookより引用

このようなイベントの開催は、市民はもとより、市内外・対外的にもPRもでき、市民が誇れる津山となり、郷土愛の醸成も図れるのではないかと考える。

## お世話になった取材協力先

---

- 津山市 企画財政部 みらいビジョン戦略室
- 津山市 財産活用課
- 津山市 産業経済部 みらい産業課
- 津山市 都市計画課 都市整備・公園係
- 一般財団法人 津山市都市整備公社
- 吉備中央町 協働推進課
- オーガニックマルシェ 主催者様、出店者様
- お野菜マルシェ 主催者様
- TSUYAMA FOOD COLLECTION 主催者様、出店者様
- 宮川朝市 運営者様、出店者様
- 桃 TARO EXPO 2022 主催者様、出店者様
- 岡山商工会議所青年部
- 公益社団法人岡山県観光連盟 専務理事 野崎様
- 日本商工会議所青年部政策提言委員会 平成 28 年度委員長 林様

なお、本提言書における調査・取材などの報告書、並びに各資料などは津山商工会議所青年部の HP 上に掲載しております。以下の QR コードより閲覧することができます。

津山商工会議所青年部 HP (津山 YEG HP)

各年度政策提言掲載ページ

<https://www.tsuyama-yeg.org/proposal/>



## 最 後 に

この度、政策提言委員会ではテーマを「循環と持続～津山を未来へ～」としました。私たちが生まれ育った津山に何か恩返しが出来ないか、一度見つめ直し、この先の津山の未来について考えてまいりました。

様々な方と意見交換をさせて頂き、また他方面へ調査、取材を行い沢山の気づきを得て、本提言書へ反映させて頂きました。

津山への郷土愛がこもった政策提言書が出来上がったと確信しております。

この提言書策定を通して青年経済人として常に現状への問題意識を高く持ち、そこに問題定義であり現状否定を行っていける人財として成長していくことが大切と感じました。

新たな時代に我々の津山が輝き続け、人も街も成長し、豊かで明るい地域社会の繁栄へ寄与できるよう、あとがきとさせて頂きます。

本政策提言書の作成に関わってくださった多くの皆様にこの場をお借りして感謝を申し上げます。

ありがとうございました。



津山商工会議所青年部  
令和4年度 政策提言委員会  
担当副会長 宇治 那生樹

## 令和4年度 津山商工会議所青年部 SDGs 宣言

津山 YEG は国連が提唱する「持続可能な開発目標 (SDGs)」に賛同し、本提言を通じて以下の 5 項目を達成し、地域課題の解決及び、持続可能な社会の実現に寄与します。





## 令和 4 年度政策提言委員会

担当副会長	宇治那生樹				
理事	赤松 宏樹				
委員長	志水 亮介				
副委員長	池口 義仁	松下 洋祐			
運営幹事	板倉 正幸				
経済・経営R	増田 要				
生活・観光R	竹内 崇				
津山の日R	正影 雄士				
委員	有木 聖人	内田康太郎	岡 真士	坂手 則文	
	鈴木 智博	早瀬 愛子	廣田 勤	牧野 剛人	
	美甘 和伯				



【本件担当】

令和4年度 津山商工会議所青年部 政策提言委員会

津山商工会議所青年部

〒708-8516 岡山県津山市山下30-9 津山商工会議所内

TEL:0868-22-3141 FAX:0868-23-5356

令和4年度  
政策提言書  
『循環と持続～津山を未来へ～』

別添付資料



津山商工会議所青年部

## 令和4年度政策提言委員会 取材報告書

### 目次

#### ■ 経済・経営分野

ふるさと納税について・・・・・・・・・・・・・・・・	2
吉備中央町 ふるさと納税についての取材・・・・・・・・	6
地域デジタル通貨について・・・・・・・・・・・・・・・・	7

#### ■ 生活・観光分野

津山市内における朝市視察・・・・・・・・・・・・・・・・	8
マルシェ参加のみなさま(出店者さま)へのアンケート・・・・・・・・	9
公園係にマルシェ主催出店の実情をヒアリング・・・・・・・・	11

#### ■ 津山の日分野

岡山YEG主催 岡山市民の日記念例会へのオブザーバー参加・・・・・・・・	13
--------------------------------------	----

#### ■ 総合分野

市長訪問の上意見交換・・・・・・・・・・・・・・・・	14
津山市関係者との意見交換(さくら会議)・・・・・・・・	16

取材報告書			
目的：	ふるさと納税について		
対応チーム：	経済経営チーム	記録者：	増田
日時：	令和4年5月24日（火）16:00～17:00		
取材先：	津山市役場東庁舎 地域商社曲辰 及び 商業・交通政策課		
対応者：	松下(副委員長)、増田		

## 【報告内容】

■地域商社曲辰へ地域商社についてとふるさと納税との関係について

ふるさと納税の返礼品に商品を提供している地域商社として、どういう経緯やコンセプトで返礼品を載せているのかを取材した。

1)曲辰の業務内容について

- ①津山市で生産された農産物などをパッケージを整え、それを市内外での物産展などに持ち込んで広報活動をするなどしている会社であるということ。
- ②津山市の生産物をブランディングし、県外に広めるという活動を行っている。  
また、それ以外にも地元企業と協力し、ラジコン草刈り機など様々な商品開発を行っている会社であった。

2)ふるさと納税との関係について

- ①曲辰ブランドのお米・日本酒飲み比べセット・クラフトビール・そずり鍋セット等をふるさと納税に登録しているとのこと。
- ②牛魔王というスパイスを開発したのだが、原材料は津山産でも加工が広島の為、それでは返礼品には載せられないということであった。

■津山市産業文化部 商業・交通政策課への取材について

ふるさと納税を取り扱っている津山市役所の部署である商業・交通政策課へ取材を行った。

1)具体的な活動内容について①県内外PR活動

曲辰と共に津山ブランド商品などの広報活動を県外などに赴いて、PRイベントに行くこともあるとのこと。その際にプレゼンするための資料などが大量に用意されていた。

②返礼品への対応

返礼品のチェックやその返礼品が届かないなどのクレーム、ほかにも問い合わせなど、とにかく全般をフォローしている様子だった。

2)ふるさと納税担当課の現状について

①ふるさと納税をメインで担当している人員が1人とのこと。

基本的に返礼品のチョイスというのは、企業側から申し出のあったものをチェックし、掲載するとのこと。

②寄付額を増やすために積極的に企業側に返礼品を求めないのかと質問したところ、やりたいと思っているが、それだけの時間がとれないとの事であった。

3)取材担当者からの考察

津山YEG内でも勉強会を開くなどして、ふるさと納税の返礼品のラインナップを増やしていく活動なども面白いかもしれません。

令和4年度政策提言委員会





取材当日に津山市より頂いた資料②

## 津山市ふるさと納税県内ランキング

(単位：千円、件)

団体名	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数
岡山県 吉備中央町	611,251	23,876	669,664	25,299	711,515	28,338	1,024,085	39,956	1,086,241	28,932	1,218,905	34,897
岡山県 瀬戸内市	119,341	4,646	142,625	6,044	287,181	7,990	618,069	26,465	525,250	28,417	804,117	43,391
岡山県 笠岡市	329,025	21,437	878,385	57,796	835,615	58,857	721,551	40,662	509,003	37,906	600,394	42,987
岡山県 総社市	1,283,579	41,406	1,568,952	43,394	1,688,595	53,905	509,814	12,838	557,897	12,758	562,426	15,028
岡山県 岡山市	150,335	11,859	99,111	7,878	121,980	6,071	74,658	3,798	240,666	12,299	392,347	16,209
岡山県 赤穂市	65,897	2,615	43,032	1,591	61,288	2,345	119,510	4,750	303,786	9,898	302,582	11,027
岡山県 備前市	2,743,585	31,735	2,119,636	18,452	412,350	7,207	162,271	6,631	264,231	7,850	293,002	10,598
岡山県 真庭市	109,558	4,595	111,729	4,354	171,183	7,435	184,204	7,827	184,779	8,789	284,598	12,526
岡山県 倉敷市	42,722	774	45,296	964	332,625	11,472	97,168	2,390	88,714	2,475	264,769	9,394
岡山県 玉野市	30,156	767	60,292	1,167	131,677	1,707	103,834	2,060	332,379	7,296	253,179	13,247
岡山県 里庄町	4,118	241	5,248	241	17,018	926	26,891	1,099	72,932	3,419	219,644	8,936
岡山県 津山市	189,693	12,417	172,357	12,505	179,755	13,154	262,708	19,013	178,766	11,429	207,757	12,311
岡山県 高梁市	15,187	798	27,342	1,446	56,482	2,778	68,070	3,744	166,508	11,715	206,056	15,312
岡山県 和気町	76,708	2,623	86,340	3,134	94,529	5,300	123,524	5,990	121,359	6,333	188,108	11,539
岡山県 美作市	23,037	936	28,243	1,045	44,537	1,809	71,999	3,274	115,826	5,853	167,626	9,215
岡山県 西粟倉村	10,280	497	22,379	760	46,911	2,534	55,139	1,775	142,496	4,775	152,762	7,262
岡山県	32,466	1,945	45,465	1,301	46,384	1,406	84,920	3,474	142,862	7,208	151,814	10,972
岡山県 美咲町	15,740	991	9,640	369	24,766	1,554	51,988	3,079	92,793	5,241	128,527	7,487
岡山県 浅口市	83,194	7,002	68,694	5,528	29,532	2,016	51,326	3,600	98,533	6,022	118,432	6,347
岡山県 井原市	11,763	286	15,875	580	30,086	1,216	22,941	687	30,970	1,029	110,944	4,833
岡山県 矢掛町	3,785	85	5,394	82	19,342	577	5,520	148	19,353	177	86,131	6,305
岡山県 新見市	38,448	516	31,344	689	54,771	2,322	44,064	1,620	39,285	1,390	66,524	3,222
岡山県 久米南町	1,630	115	18,985	1,013	42,269	2,497	46,600	2,717	36,363	1,714	38,623	1,928
岡山県 勝央町	47,072	4,368	49,344	4,371	17,169	1,040	17,995	988	35,186	2,150	34,864	2,276
岡山県 新庄村	254,019	6,793	573,322	6,345	248,428	2,670	12,764	403	17,280	661	23,256	1,024
岡山県 鏡野町	20,401	1,263	17,915	1,172	14,834	752	11,991	731	19,149	1,121	20,558	1,067
岡山県 早島町	4,439	244	3,767	262	4,755	383	4,641	332	8,995	568	19,226	1,021
岡山県 奈義町	7,286	369	6,303	240	4,977	277	7,432	352	13,164	841	17,304	646
全国合計	284,408,875	12,710,780	365,316,666	17,301,584	512,706,361	23,223,826	487,538,781	23,336,077	672,489,555	34,887,898	830,239,352	44,472,920

取材報告書			
目的：	吉備中央町のふるさと納税について取材		
対応チーム：	経済経営チーム	記録者：	増田
日時：	令和4年6月17日（金）14:00～15:00		
取材先：	吉備中央町役場 協働推進課		
対応者：	宇治(副会長)、松下(副委員長)、増田		

## 【報告内容】

## ■吉備中央町役場でのふるさと納税、その対応や企画についてヒアリング

## 1)吉備中央町でのふるさと納税の具体的な活動について

- ①吉備中央町の特産品であるお米をメインに取り扱っている。その方法として、お米を単品で出品するだけでなく、定期購入に結びつけるよう考えられていた。
- ②吉備中央町のふるさと納税の使い道はすべて農家支援にあたっているとのこと。
- ③吉備中央町は農家の町ということで、ふるさと納税で農家支援をすることがそのまま住人の支援に直接つながりやすい。
- ④ふるさと納税の町独自サイトを立ち上げ、そこから寄付を集めているとのこと。
- ⑤通常の流れとしてはお米の流通については農協が行っている。

## 2)ふるさと納税担当課の現状について

- ①ふるさと納税を担当している職員は、兼務を合わせると11名で対応しており、問い合わせに対しては11人だけでも対応できる体制とのこと。
- ②返礼品について、在庫が足りない場合は町内の買付を行ったり、在庫として余るようであれば、いろいろなサイトに登録や宣伝等に力を入れるなど職員が適宜対応しているとのこと。
- ③返礼品の企画等は職員が行っており、民間からの企画提案などの応募は少ない状況。

## 2)取材者からの考察

- ①ふるさと納税の仕組みを利用した特産品の米をサブスクリプションのような形で提供するモデルは非常に先進的に感じた。また、その納税使途を農家支援に絞ることにより、ふるさと納税を活かしたサプライチェーンを確立しており、まさに経済循環が成り立っていると感じた。

取材報告書			
目的：	地域デジタル通貨について		
対応チーム：	経済経営チーム	記録者：	志水
日時：	令和4年11月25日（金） 10:00～11:00		
取材先：	津山市役場東庁舎 津山市産業文化部 商業・交通政策課		
対応者：	志水(委員長)		

【報告内容】

■津山の地域通貨現状とこれからの展望について津山市役所担当課へ取材

1)津山における地域通貨の現状について

①コロナ禍において、地域経済活性化政策として、令和2年度以降に以下の地域商品券が登場した。

石垣、スマイル、さくら、うまい券、シン・さくら、シン・うまい券など

※上記はすべて紙ベースのものだった。

②令和3年度にeつやま商品券という電子商品券を発行したということ。

eつやま商品券は、商品券として運用しているため、現在の運用では金額のチャージ機能などはなく、地域デジタル通貨と呼ぶには不十分なものとのこと。

③eつやま商品券はおまかせeマネーというNTTカードソリューションズの既存システムを入札の上、決定している。

2)今後の運用について

①紙ベースの商品券でないと高齢者層が使いにくいという意見がある一方、他の自治体サービスなどは電子化の成功例もあるため、電子化を進めていきたいとのこと。

②市としても地域デジタル通貨について、研究中とのこと。

③今のeつやま商品券は広報機能などをもたせれるようなプラットフォームとしては機能していないということだった。

取材報告書			
目的：	津山市内における朝市視察		
対応チーム：	生活観光チーム	記録者：	志水
日時：	令和4年7月10日（日）8:00～9:00		
取材先：	市内某朝市		
対応者：	志水(委員長)、池口(副委員長)		

## 【報告内容】

## ■津山で開催されている朝市にて主催者及び出店者に取材

## 1)朝市の概要について

- ①26年間続いている朝市。周辺住民の有志で運営されている。
- ②運営スタッフは設立当初から継続的に携わっている方も多いが、高齢化も進んできており、総会では継続の是非の話も出ている模様。現状は昔から継続的している。
- ③「朝市のファンのために」というモチベーションで開催しているとのこと。
- ④直近の開催時には200～300人訪れており、近隣の方だけでなく車での来場も多いとのこと。また、来場客は若者もいるが高齢者層が多い。

## 2)出店店舗について

- ①農作物や生花などだけではなく、海産物や天然酵母パンなども出店されており、津山だけでなく、県南部の市町村からも来ている。
- ②県南部沿岸から来ている海産物出店者は毎回出店されてるらしく、産地直送で新鮮なものを売り出されていた。
- ③大雨を除けば雨の日も開催されており、月一ではあるが継続的に開催されている。
- ④天然酵母パンの方は県内遠方から出店しており、16年間継続して出店されている。

## 3)顕在する問題点について

- ①賑わいがだんだんと減ってきている気がしているという声もあった。
- ②現在の出店料は安価だが、客足の減少に伴い、だんだんと出店料も下がってきた。今は「客数が少なくなる⇒出店店舗が減る」という状態。
- ③同事業を継続して開催していくのに対しての後継者問題などこの築き上げ朝市のブランドを後世に残していくにはテコ入れが必要と感じた。

## 3)取材担当者からの考察

- ①現在ではマルシェなどが各地で行われているが、今回の朝市はまさにこのようなマルシェの前身と考える。マルシェは年一回の開催であったり、頻度が少ないことが多く、お祭りのイベント価値があるが、生活に根づきにくい。
- ②朝市の定期性と継続性を見習い、活性化に活かしていける活路があるのではないかと感じた。



取材報告書			
目的：	マルシェ参加のみなさま(出店者さま)へのアンケート		
対応チーム：	生活観光チーム	記録者：	池口
日時：	令和4年10月30日（日）11:00～14:00		
取材先：	TSUYMA FOOD COLLECTIONおよび桃TARO EXPO		
対応者：	宇治(副会長)、池口(副委員長)、内田、鈴木、竹内		

## 【報告内容】

## ■TSUYMA FOOD COLLECTIONおよび桃TARO EXPOにて行ったアンケート集計

上記2つのイベントに赴き、アンケートを実施。その集計を以下に記す。

## 1) マルシェ出店のきっかけ

- ・他の出店者からの依頼。
- ・主催者と面識があった。
- ・知人からの紹介。

## 2) マルシェの出店回数

- |        |        |          |
|--------|--------|----------|
| ・初めて   | ・10回以上 | ・年10～20回 |
| ・2～4回  | ・月に15回 |          |
| ・5～10回 | ・年10回  |          |

## 3) 他の団体が主催するマルシェとの違いはあったか。

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| ・運営がしっかりしている。 | ・準備を手伝ってもらえた。    |
| ・テーマがある。      | ・電源が用意されていた。     |
| ・規模が大きい。      | ・出店者が多いから来場者も多い。 |
| ・スタッフが多い。     | ・テントが有料。         |
| ・子供が多い。       | ・準備が楽だった。        |

## 4) マルシェを出店してみても課題

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| ・搬入できる時間を早くしてほしい。   | ・飲食スペースの有無が分かりにくい。 |
| ・搬入の時間を分けてありスムーズ。   | ・駐車場が近くてよかった。      |
| ・列ができて他店に迷惑がかかっていた。 | ・文句なし。             |
| ・行列がすごい。            | ・情報共有のやり方。         |
| ・各種届出が簡単でやりやすかった。   |                    |

## 5) その他、ご意見等

- ・雨が降らなくてよかった。



**写真1 TSUYMA FOOD COLLECTIONの様子**

たくさんの一般客であふれていた。



**写真2 桃TARO EXPOの様子**

大いに賑わいを見せていた。



**写真3 桃TARO EXPOの様子**

美咲町のキャラクターも来ており、町の参画が垣間見られた。

取材報告書			
目的：	公園係にマルシェ主催出店の実情をヒアリング		
対応チーム：	生活観光チーム	記録者：	池口
日時：	令和4年11月21日（火）9:00～10:00		
取材先：	津山市関係者		
対応者：	志水(委員長)、池口(副委員長)		

【報告内容】

■津山市における公園などの施設利用申請について取材

都市公園に当たる公園（津山のマルシェを行うような大きな公園はほぼ都市公園）について申請書など手続きについてヒアリングをした。

1)利用申請について

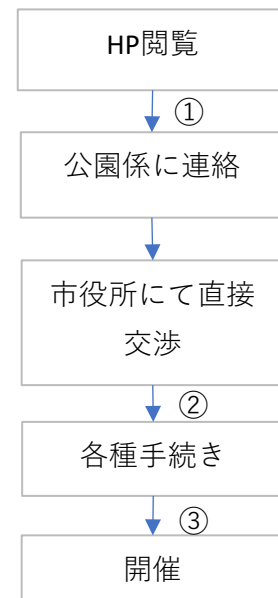
- ①申請については使用二ヶ月前からの開始としている。
- ②リージョンセンターやペンタホールは半年前からの予約ができるため、申請時には同施設とのイベントのかぶりがないかを確認している。
- ③公園係の人員配置としてはリージョンセンターに1人。市役所に4人。

2)マルシェ開催について具体的な申請方法まとめ

以下に図を用いながらまとめた。

- ①津山市HP上にある申請書をDLして公園係に持つて  
ことになっているがどの申請書が必要か、わかりにくいため、公園係に一度出向き、申請書の書き方を確認する必要がある。
- ②主催者は公園係担当と直接話しをする。  
申請方法の相談や駐車や乗り入れ可能エリアの確認、禁止事項などを直接伝えている。
- ③窓口で書類記入方法の案内や必要書類を案内してもらえるとのこと。このときに食衛などの案内も簡単にすると丁寧だと感じた。

主催者として  
マルシェ始める手順



3)取材担当者からの考察

- ①公園係に相談しやすい窓口がすでにあることはいい点だとおもった。
- ②しかしながら、入口として手続きの難しさはあり、まずはHPの案内を丁寧にすべきと感じた。
- ③マルシェなどの取り組みが既存のリソースを使った観光産業となりうる点は市の担当者にも共感をいただけたと感じた。

- ④女性担当者と話した際、主催者や出店者として主婦層が参画が増えつつあることは把握されており、我々の考えに同調して頂けた。（女性のサードプレイス）
- ⑤人マッチング、場所マッチングは収益が絡む事があり市の広報を使うことができるかは、公園系の判断では難しいこともあるとのこと。

令和4年度政策提言委員会

取材報告書			
目的：	岡山YEG主催 岡山市民の日記念例会へのオブザーバー参加		
対応チーム：	津山の日チーム	記録者：	志水
日時：	令和4年6月1日（火） 19:30~21:00		
取材先：	岡山YEG		
取材者：	釣谷(会長),神田(専務理事),鳥越(監事),宇治(副会長),赤松(理事),志水(委員長),板倉(運幹),正影(PR)		

【報告内容】

■津山の日制定に向けた提言調査のため岡山YEGへ訪問・取材

1)岡山市民の日についての経緯と概要

- ①岡山YEGでは12年前に岡山市へ「岡山市民の日」の制定に向けた提言をし、同提言より2年後に岡山市民の日が制定されている。
- ②岡山市民の日を主として取り扱う委員会を制定より10年間設置し続けている。

2)今年度の岡山市民の日委員会活動について

- ①制定より10周年の今年は岡山市民への認知度を見直すため、再出発とし、「本気なんです!岡山市民の日!」と銘打ち、SNSなどの広報を広く実施していた。
- ②インスタグラムを用い岡山市民の日専用アカウントへのフォロワー数1000人を当日までの目標に定め、達成されていた。
- ③現代の人の行動指針となるAISASの法則(注意,興味,検索,行動,共有)に基づいたビジョンを掲げ、運用計画を明快にしていた。以下に具体例を記す。
  - 1年目：仕組みづくりと認知度向上
  - 2年目：認知・興味・検索
  - 3年目：参加・シェア

3)取材者からの考察

- ①制定に向けた提言にプラスして提言内容が実現したあとの短期、中期、長期でのビジョン提案も必要。具体的なビジョンを提示することで提言の採用確率も高まり未来のためになぜ提言するのがより明確になる。
- ②今年度の提言活動は描く未来を想像できるものとしていきたい。



写真4 岡山市民の日記念例会の様子

オリジナルTシャツや地元インフルエンサーを巻き込むなど多岐に渡る活動をしていた。

取材報告書			
目的：	市長訪問の上意見交換		
対応チーム：	委員会対応	記録者：	志水
日時：	令和4年7月4日（月）10:00～10:30		
取材先：	津山市長 みらいビジョン戦略室		
対応者：	宇治(副会長)、志水(委員長)、池口(副委員長)、板倉(運営幹事)、赤松(理事)、正影、廣田		

【報告内容】

■令和4年度政策提言のテーマについて市長と意見交換

1)令和4年度政策提言について概要説明

- ①津山市長谷口圭三様、みらいビジョン戦略室寺坂様へ当委員会の提言内容の大枠説明用の資料を用い(資料参照)、今年度の流れの説明を行った。
- ②津山の日においては目的、ビジョン、具体的な日程の話を含め、提言に至った際のことなどを共有した。

2)市長から現状の市政についての説明

市長から今年の所信表明と重点目標の資料をいただき、提言に対しての意見を頂いた。

①経済経営分野について

- ・ 財政=経済と捉えている。
- ・ 行政改革の3M（ムラ・ムダ・ムリ）に取り組みながら思いを形にする人の存在を活かした市政を行う。
- ・ DMOや公民連携事業はまさに重点項目。

②生活・観光分野について

- ・ 観光はこれからもっと伸びる。実際に今年は調子がよい。
- ・ 具体的な成果として、
  - さくら祭り 10万人
  - 牛魔王 1.1万人
  - スイーツフェスタ 5000人
 など数字に現れて来ている。これからはアフターコロナに向け、特に台湾をターゲットにしたインバウンドに力を入れていきたい。
- ・ 研修旅行誘致や津山のまちじゅう博物館構想にも力を注ぎたい。

③津山の日分野について

- ・ 2月11日は建国記念日と同じ。
- ・ 市政功労賞の表彰日でもある。
- ・ 津山100周年に向け市としても力を入れているところ。

④その他

ローカルファーストや災害復旧（レジリエンス性）、健康寿命について



# 循環と持続

私達 YEG にできること、それは津山市を一経済団体として捉えた目線で、100 年後も津山があり続けられるように考えることだと考えます。そのために提言のテーマを『循環と持続』としました。

拠点都市津山が末永くあり続けるため、『経済・経営』、『生活・観光』の面からのアプローチと、津山に関わる人々が津山を思い馳せるような『津山の日』の創設についての提言を模索しています。

この 3 本の柱において津山の未来へ寄与する提言をしたいと考えています。

## 経済・経営

- 津山を一つの会社と捉えた財政的な政策提言
- 地域 DMO や PFI・PPP 政策について

- 交流人口・関係人口に着目した地域の盛り上がりの創出
- 観光推進に寄与する提言

## 生活・観光

## 津山の日

- 津山市民の郷土愛の醸成を目指した 記念日の提言  
津山市民・出身者が津山を思い出し、誇りに感じられる日
- 津山創立 100 周年に向けた盛り上がりの創出

(2029 年 2 月 11 日で津山市創設 100 年)



参考写真：岡山市民の日

取材報告書			
目的：	津山市関係者との意見交換（さくら会議）		
対応チーム：	委員会対応	記録者：	志水
日時：	令和4年8月26日（金）18:00～20:00		
取材先：	津山市関係者		
対応者：	釣谷(会長)、神田(専務理事)、白石(理事)、政策提言委員会メンバー		

## 【報告内容】

## ■津山市の提言内容に関わる担当者との意見交換

提言予定の3分野についてそれぞれのチームリーダーより説明を行った上で意見交換を実施した。

## 1)経済経営チームについて

ふるさと納税についての提言の進捗を発表した後、以下の意見が出た。

- ・市役所担当課の人数が少ないことは一つの問題点として理解してもらった。
- ・これからの具体的な提案（描くビジョン）として以下の内容を共有した。
- ・モノよりコトのふるさと納税（サービスなど）。
- ・生活インフラやサブスクに着目したもの。
- ・津山ブランドを確立させるもの。
- ・ポータルサイト等の充実が必要。
- ・津山産として売り出していきたいものをつかったブランド戦略（麦など）。

## 2)生活・観光チームについて

マルシェや朝市についての提言の進捗を発表し、以下の意見が出た。

- ・津山小麦×パン等の強みを生かした観光や場作り。
- ・高知のひろめ市場等を参考に『集まる仕組み』を集約する。
- ・マルシェイベント一覧を市役所管理のHPでデータベース管理するのは良い案。  
→例えばイベント一覧用の書式等を添付する提案。申請資料の共通化も課題。
- ・強みを活かせる提案をしたい。津山に肉やグリーンヒルズを使ったBBQプラン。
- ・人×人のマッチングは産業支援センターが行っている。
- ・津山マトメルマルシェのハッシュタグを認知してイベント数を把握。

## 3)津山の日チームについて

津山の日を制定に向けた提言の進捗を発表した後、以下の意見が出た。

- ・何を行う日かを明確にする（描くビジョン）。
- ・観光団体や各種団体の声を集め巻き込み広げる。
- ・街を好きになるようなものにしたい。
- ・津山市民の思い出になるような日にしたい。
- ・条例として制定の必要がある。
- ・プロセスとして議会発議を利用することもあり。